



スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド
愛称: ベスト・アルファ

マンスリーレポート
基準日 2021年8月31日

【運用実績】

過去のパフォーマンス(%)	直近の分配実績(円)	
	ファンド	TOPIX配当込
過去1ヵ月間	-0.44	3.17
過去3ヵ月間	-1.11	2.12
過去6ヵ月間	1.54	6.33
過去1年間	11.99	23.79
過去3年間	20.26	21.24
設定来	186.13	152.61
		設定来累計
		1,300

※決算期に収益分配があった場合のファンドのパフォーマンスは、分配金(税金控除前)を再投資することにより算出される収益率です。従って実際の投資家利回りとは異なります。

【ロング・ショート別構成】

	比率(%)	銘柄数
ロング	60.5	32
ショート	-31.0	41
ネット	29.5	-
グロス	91.5	-

※ 比率は対純資産総額
※ ネットはロングとショートの差引、グロスはロングとショートの合計です。

【市場別構成(ロング)】

市場	比率(%)
東証1部	43.3
東証2部	0.0
東証マザーズ	14.0
ジャスダック	3.2
その他市場	0.0

※比率は対純資産総額

【業種別構成(ロング)】

業種	比率(%)
サービス業	11.6
機械	10.5
情報・通信業	8.7
電気機器	6.7
金属製品	4.2
その他	18.8

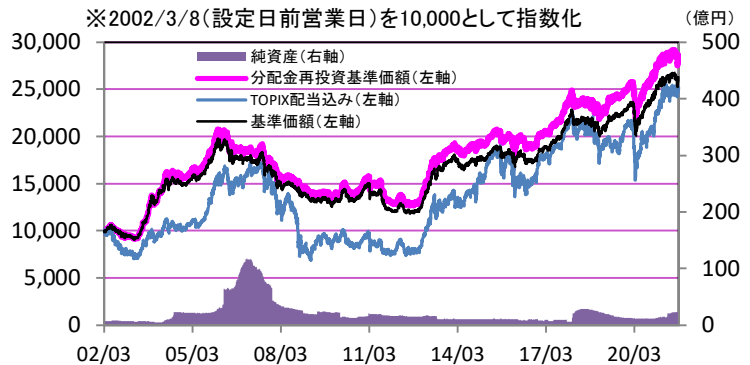
※比率は対純資産総額

【基準価額・純資産総額の推移】

基準価額	解約価額	純資産総額
26,256 円	26,178 円	22.96 億円

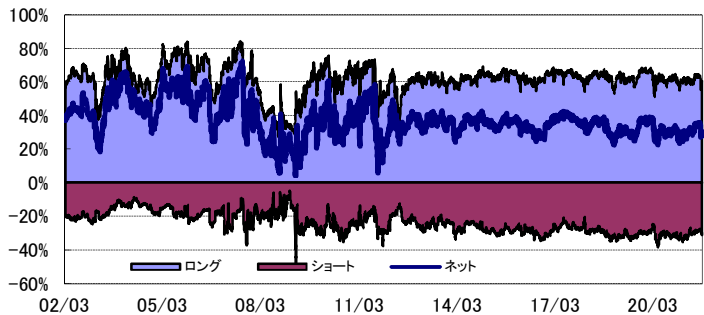
ハイ・ウォーター・マーク 25,558 円

※ 基準価額がハイ・ウォーター・マークを超えると実績報酬が発生します。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
※ 当該ハイ・ウォーター・マークは、当ファンドの毎計算期間末(毎年3月10日、休日の場合は翌営業日)および毎計算期間の最初の6ヵ月終了日に更新される場合があります。詳しくは委託会社にお問い合わせください。



※2002/3/8(設定日前営業日)を10,000として指数化 (億円)
※基準価額は信託報酬・実績報酬等控除後です。
※分配金再投資基準価額は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものとして計算しております。
※当ファンドはTOPIX(配当込み)をベンチマークとするものではありません。
※過去の実績は将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

【ロング・ショート比率推移(設定来)】



※ 比率は対純資産総額、ネットはロングとショートの差引

【組入有望証券上位10銘柄(ロング)】

順位	銘柄	業種	比率(%)
1	SMC	機械	4.0
2	DMG森精機	機械	3.8
3	ギフト	小売業	3.7
4	UTグループ	サービス業	3.6
5	東急不動産ホールディングス	不動産業	3.4
6	村田製作所	電気機器	3.3
7	アンビスホールディングス	サービス業	3.2
8	SUMCO	金属製品	3.1
9	オロ	情報・通信業	3.0
10	Fast Fitness Japan	サービス業	3.0

※比率は対純資産総額

※ 上記記載のうち、【運用実績】、【基準価額・純資産総額の推移】以外は当ファンドが投資するマザーファンドに関する情報です。

※ 「比率(%)」は、当ファンドが投資するマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド
愛称:ベスト・アルファマンスリーレポート
基準日 2021年8月31日

ファンド・マネージャーのコメント

【市況状況】

2021年8月、日本株式市場の代表指数であるTOPIX（配当込み）は前月末比3.17%の上昇となりました。

当月の日本株式市場は、前月末の下落に対する反動があったほか、想定を上回る四半期決算となった企業が多かったことを受け、上昇して始まりました。

月半ばには、国内で新型コロナウイルス変異株の感染が拡大する中、19日にトヨタ自動車(株)が9月の世界生産台数を当初計画比の約4割削減するニュースが発表されたことを受け、株価は下落に転じました。

月後半には、27日に開催されたジャクソンホール会議において米国の早期利上げ観測が後退したことを背景に上昇し、前月末を上回る水準で月を終えました。

【運用状況】

8月の当ファンドは、アンビスホールディングス、JMDCなどが上昇し、パフォーマンスに対してプラスに貢献しました。

アンビスホールディングスは、既存施設の入居率が会社想定を大きく上回ったため、2021年9月期通期業績を上方修正したことが好感されました。JMDCは2022年3月期第1四半期決算が市場予想を上回ったことに加え、中期的な事業シナジーが期待できる医療システム開発の(株)アイシーエムの買収を発表したことが好感され、株価が大きく上昇しました。

一方、ギフト、ペプチドリームなどが下落し、パフォーマンスに対してマイナスに影響しました。

ギフトは、新型コロナウイルス変異株の全国的な感染拡大で、同社が運営するラーメン店の売上にネガティブな影響が出ることを懸念して、株価が下落しました。ペプチドリームは2021年12月第2四半期決算が減益になったことが嫌気され、株価が下落しました。

投資ウェイトに関しては、決算発表を通じて一部のロング投資先企業において当初の見通しと異なり収益環境の悪化が見られたことから、当該企業に対する売却を行いロングポジションの比率を引き下げました。また株価が割高と判断した企業に対してショート投資の積み増しを行ったことで、ネットポジションを当ファンドが考える中心的な水準である30%程度まで引き下げました。

【運用方針】

新型コロナウイルス変異株が全国的に感染拡大しています。

多くの競技が無観客開催となった東京オリンピックなど、経済活動の低迷を長期化させるような事象が増えています。先行き不透明感が高まった今こそ、企業経営者との対話や企業分析など地道な調査を行い、投資仮説に基づいた投資を着実に実行する方針です。

足元の企業取材では、コンテナ不足に伴う部品や材料の調達量やスケジュールに関する混乱、需要の増加と操業トラブルに起因する世界的な半導体不足など製造業のサプライチェーンの混乱がマイナス材料視されています。

しかし、当ファンドでは以下の二つの要因から、上記は「将来的なプラス材料」とであると判断しています。

一つ目はいわゆる「リベンジ消費」です。

新型コロナウイルスの感染拡大以降、各国政府によって手厚い経済支援策が打たれてきました。米国では3回の給付金支給、失業給付額の上乗せ、日本でも特別給付金などの多くが貯蓄として退蔵されていると思われ、その額は米国では3兆米ドル（約330兆円）以上、日本では30兆円以上と、当ファンドは考えています。これは家計当たりで換算すると米国で約300万円、日本では約70万円に相当する金額です。コロナ禍が急速に収束するとは考えられませんが、着実に進みつつある新型コロナワクチン接種の効果が消費の拡大の後押しとなる可能性が高いと考えています。

二つ目は「計画的な生産の効果」です。

当ファンドでは、自動車産業などサプライチェーンを正常化させるまでには、今後6か月から9か月間程度の期間が必要であると予想しています。確かに足元では生産状況にマイナスの影響は出ていますが、今後半年以上は高い水準で生産することが高い確率で予想できると、当ファンドは考えます。設備や人員など計画的に配備することで効率的な生産が可能になり「経営しやすい事業環境」になることが期待でき、売上規模の拡大と利益水準の上昇が同時に見られる好環境となると、当ファンドは考えます。

このような環境をプラスに享受することが期待できる企業として、当ファンドは、DMG森精機、SMC、UTグループといった製造業の設備投資や生産にかかわる企業や、ギフト、東急不動産ホールディングスといった消費の回復の恩恵が期待できる企業などに重点的に投資を行っています。

ショート投資では、半導体の供給不足によって製品ライフサイクルのピーク期の需要を逃したと判断し、ゲーム会社A社へのショート投資を上乗せしています。A社に対しては、仮に来年以降に半導体の供給不足が解消したとしても発売時期が新しい競合他社製品との競争にさらされること、昨年来の巣ごもり需要によって増加した販売の反動減が見込まれるなど厳しい環境が予想されると、当ファンドは考えます。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性及び完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書（交付目論見書）のご請求、お問合せは販売会社まで。